

◇第14回◇

我が街の医療最前線

終末期医療

長尾クリニック
 阪神電車「尼崎駅」徒歩10分、
 「出屋敷駅」徒歩6分
長尾和宏院長

在宅医療の世界では名 出版3カ月で10万部の知られた長尾院長だ 突破。同書の中身をひとが、最近、ベストセラ 言でいえば、もし病氣や「『平穏死』10の条 老衰で終末期を迎えた件」(ブックマン社)の き、どうすれば苦しま 著者といった方が通りが ず、自然に穏やかにあの いかかもしれない。 世へと旅立つて行けるか —、その方法を分かり

10万部突破の

平穏死
10の条件

『平穏死』10の条件』を書いた医師のクリニック



やすく説いた手引書だ。 生きるために、延命治療 人生を最期まで満足して を受けない選択肢もある

ことを提示している。 「実は一番読んでほしい のは病院のお医者さんな んです。依然として日本 の医学界は、患者の『死 は敗北』、一秒でも長く 生かすことが、絶対的な 善』という認識です。で も多くの一般の人が終末 期を迎えたときの願いは 病院で亡くなることでは ありません。しかしその 願いはほとんどかないま せん。いまの医学界の常 識は患者さんやその家族 にとつては非常識。私は そのギャップを埋めたい のです」

大震災の直後に勤務医を 辞めて、兵庫県尼崎市に 小さな診療所を開業。当 初から地域の外来診療と 医師制にして総合診療の 在宅療養の患者を診てき たベテランの町医者だ。 いまでは同院は、複数 365日24時間体制の在 宅医療を提供している。

「11年間の勤務医時代に 500人以上の最期をみ ました。毎回、その壮絶 な最期に『なぜ、ここで 苦しまなあかんのやろ』 と疑念を持ちました。次 第に『医療者が余計なこ とをするからじゃない 救急車を呼んでいったん 入院したら、たとえ患者

在宅療養の患者を診てき 機能を持つこともに、在 宅医療支援診療所として 365日24時間体制の在 宅医療を提供している。

「そのほぼ全員が病院時 代とは違い、とても穏や かで眠るような最期でし た。病院の死との大きな 差を知ってほしい」

現実、終末期に慌てて 入院したら、たとえ患者 群』の状態は今も昔もあ 最後まで抗がん剤を打た 死』をかなえる場とし 管を取り付けられた、い 「がんであれば、最後の 穏やかに旅立つ『平穏 死』をかなえる場とし 死』をかなえる場とし 死』をかなえる場とし

が、人間の『尊 亀井隆司』



- 開業＝1995年
- 経歴＝東京医科大学卒業後、大阪大病院第二内科、市立芦屋病院内科に勤務。日本慢性期医療協会理事、日本ホスピス在宅ケア研究会理事、日本尊厳死協会副理事長、関西支部長
- 診療科目＝内科、消化器内科、循環器内科
- 診療時間＝9～12時/16～19時(土曜は13～16時)、日・祝日は午前診療のみ
- 休診日＝年中無休(年末年始は要確認)
- 住所＝兵庫県尼崎市昭和通7-242
- 電話＝06・6412・9090
- ホームページ＝http://www.naGaoclinic.or.jp/